

## 1. 調査研究のテーマ、概要

|          |  |
|----------|--|
| 調査研究のテーマ | 互いのよさを認め合い、心豊かで思いやりのある児童の育成<br>～コミュニティ・スクール、小中一貫教育を生かした取組を通して～ |
|----------|--|

### ○調査研究のテーマを設定した目的

本校は、「なかまとともに、進んで学び、たくましく、思いやりのある子どもの育成」を学校目標に掲げ、地域のつながりや細野地区の自然を生かした特色ある教育活動を展開している。

本校は、コミュニティ・スクールとして、保護者や地域、細野まちづくり協議会と連携・協力しながら米作りやそば作りをはじめとする農業体験学習などの様々な活動を行い、児童は生き生きと学校生活を送っている。また、小中一貫連携校として、細野中学校との合同研修や交流学习等を行い、中1ギャップの解消や学力向上を目指して取り組んでいる。

しかしながら、友達との関係づくりが苦手な児童や自己肯定感が低い児童などの様々な課題を抱えた児童もいる。また、細野小校区における高齢者の比率が高く、学校が地域コミュニティの核として果たす役割は大きい。

このため、学校・保護者・地域が連携・協力して、児童の自己肯定感を高めるための働きかけを行うとともに、互いを認め合い、他者と協働しながらよりよい社会をつくろうとする児童を育成する必要があると考えた。また、GIGAスクール構想により1人1台の端末が整備されたことで、日常的にICTを活用して社会の形成に参画するために情報モラルの育成も必要であると考えた。

そこで、本校がこれまでに取り組んでいる「対話」を軸に、児童同士の「つながり」を大切にされた教育活動の推進を図るとともに、細野まちづくり協議会や学校運営協議会との連携についての研究を更に深めることで、本校の学校目標が実現できると考え、本研究テーマを設定した。

### ○調査研究の概要

まず、児童の自己肯定感を高めるために、友達、保護者、地域との関わりを通して、自分の良さに気付くための取組を計画的に行う。また、各教科等の授業においては、人権が尊重される授業づくりの視点を意識して実践を行うことで、日頃から人権感覚を育むこととする。学校行事等においては他者への貢献や地域へ貢献する活動などを意図的に組み込むことで、社会のために自分が役に立っているという自己有用感を育むこととする。

## 2. 基本情報

### 研究指定校の概要

○学校名

小林市立細野小学校

○これまでの研究指定等の状況

令和4年度「宮崎の未来を築くキャリア教育研究推進事業」モデル校  
(細野中学校区)

○学級数

12学級(うち特別支援学級:2学級)

○児童生徒数(R.6.1.19)

全児童数:254名

○URL

<https://cms.miyazaki-c.ed.jp/1404/>

○指定理由

地域や学校の現状を踏まえ、具体的なテーマを設定し、研究実践を行っている。小中一貫教育連携校として、合同研修会や中学校生活体験等、中一ギャップの解消や児童一人一人に応じた教育が行われている。

今後も、小林市内だけでなく、県内の公立学校の人権教育の先導的な役割を果たせる学校であると考えたため、当学校を指定する。

○取り組んだ人権課題について

該当するものに○印、最も主要な人権課題1つに◎印を付与

|                 |   |
|-----------------|---|
| ①子供             | ◎ |
| ②女性             | ○ |
| ③高齢者            | ○ |
| ④障害者            | ○ |
| ⑤同和問題           | ○ |
| ⑥アイヌの人々         | ○ |
| ⑦外国人            | ○ |
| ⑧-1 HIV 感染者等    |   |
| ⑧-2 ハンセン病患者等    | ○ |
| ⑨刑を終えて出所した人     |   |
| ⑩犯罪被害者等         |   |
| ⑪インターネットによる人権侵害 | ○ |
| ⑫北朝鮮当局による拉致問題等  |   |
| ⑬性的指向、性自認       |   |
| ⑭その他 ( )        |   |

### 3. 調査研究の内容等

#### ○調査研究の内容

##### ア 現状の分析と課題

令和4年度に実施した「まなびたい度」調査（小林市独自のキャリア教育の視点から行った調査）の結果、「学校に行くのは楽しいと思いますか」と「人の役に立つ人間になりたいですか」の質問に対しては、「あてはまる」「どちらかといえばあてはまる」と回答する児童が6月よりも12月の方が約10%増加した。しかし、「将来の夢や目標を持っていますか」「地域や社会で起こっている問題や出来事に関心がありますか」の質問に対しては、あまり割合の伸びが見られなかった。地域との交流の中で、それぞれの児童が地域の出来事に関心を持ち、地域の大人をモデルとして将来への希望をもつという意識が低いと考えられる。そこで、互いの良さを認め合いながら、自己肯定感を高め、自信をもたせた上で、主体的に他者と協働するとともに、感謝の心を持ち、地域を愛し、地域に貢献できる児童を育成することが必要であると考ええる。

##### イ 調査研究の内容

###### (ア) 人権が尊重される学習活動づくり

授業において、「各教科の目標」と「人権が尊重される授業づくりの視点」をもって、一人一人のよさを大切にしたい授業づくりを行えば、自尊感情が高まり、互いを認め合う態度やコミュニケーション能力、学習意欲の向上が図られ、豊かな人権感覚と確かな学力が身に付くと考える。

###### (イ) 人権が尊重される人間関係づくり

様々な体験活動において、自他の良さや違いを認め合えるように交流の場を工夫すれば、適切なコミュニケーション能力や共感能力が高まり、自分たちで問題を解決していく力や自治的に活動を進めていく力が身に付くと考える。

###### (ウ) 人権が尊重される環境づくり

学校内において、児童の声や思いを尊重し、自他の大切さが認められる環境を整備すれば、互いを認め、大切にしようとする雰囲気醸成され、自己肯定感を高めることができると思う。

#### ○実施方法

ア 各教科等において、授業のねらいとする「対話を軸に、つながりを大切にしたい教育活動の推進」を図った。発達段階に応じた話し方、聞き方が育成された。

イ 外国語の授業と連携し、コミュニケーション能力を育むための授業改善を行った。相手や他者に配慮しながら、主体的にコミュニケーションを図る能力や、相手の思いや考えを想像しながらコミュニケーションを図る能力が育成された。

ウ 各教科等の授業の中で、人権教育上の視点を設定したり、法務局が実施している「人権教室」を活用し、人権意識を高める授業を行ったりした。人権を重視した授業づくりを行うことで、豊かな人権感覚が育成された。

エ 情報モラル教育などの課題未然予防教育やアンケート調査による課題早期発見対応を意図的、組織的に行った。情報モラル教室やメディアコントロール週間を通して、メディアの使用時間や使用方法、メディアのよさや危険性について、保護者とともに考える機会を設定することができた。

オ 清掃活動や集会活動、クラブ活動など、異年齢集団での活動を通して、自分たちで課題を見付け、解決するといった主体的に活動できる場を設定した。相手に伝わるように言葉かけをしたり、児童同士で教え合う姿が見られたりした。また、教師の指示がなくても、自分達でボランティアを考え工夫して行う態度が育成された。

カ 地域と協働しながらの体験活動を展開しているコミュニティ・スクールという本校ならではの特色を生かして、総合的な学習の時間における米作りやそば作り体験といった地域の特色を生かした農業体験活動を行った。社会の一員としてよりよい社会を築こうとする態度や地域へ貢献したいという態度が育成された。

キ 手話に関わる外部講師を招聘して手話についての理解を深める授業を行った。それぞれの人々がもっている良さや強みに気づき、全ての人々が希望を持って生活できる、よりよい社会を形成していこうとする態度が育成された。また、ICTを活用して、個に応じた支援や、一人一人の意見を大切にする学習活動が展開できた。

ク 「うれしかったこと」や「友達の良いところ」などを児童同士が互いに記入し、掲示する「メッセージコーナー」や人権標語などを掲示する「人権コーナー」等を設置した。運動会時にお互いを励まし合ったり、音楽発表会や立志の集いの前に上級生が励ましのメッセージを送ったりするなど、児童の自尊感情や互いの良さを認め合う態度が育成された。

#### 4. 検証・評価・改善・普及

##### ア 知識的側面、価値・態度的側面、技能的側面について

○ 知識的側面（発達段階に応じて、人権尊重の意義、人権の歴史、現状に関する知識や、自他の人権を擁護したり、人権侵害を予防したり、解決したりする知識を身に付けている。）

| 質問項目                                | 5月実施 | 12月実施 |
|-------------------------------------|------|-------|
| 友だちにいやなことを言うてはいけない理由を知っている（全校児童）    | 92%  | 95%   |
| 思いやりという言葉の意味を説明できる（全校児童）            | 70%  | 85%   |
| 友だちが失敗したり間違えたとき、どうしたらよいか知っている（全校児童） | 91%  | 95%   |
| 昔、日本にどんな差別があったかを知っている（6年生）          | 38%  | 90%   |
| 昔あった差別は、今も続いている（6年生）                | 35%  | 88%   |
| 自分と耳が不自由な人の同じところ、違うところを知っている（5年生）   | 81%  | 89%   |
| 動物にも気持ちや感情がある（4年生）                  | 83%  | 92%   |
| 日本の人と外国の人の同じところ、ちがうところを知っている（3年生）   | 45%  | 60%   |
| 性別を表す色は決まっていない（2年生）                 | 100% | 100%  |

※数値は肯定的な回答をした児童の割合

発達段階に応じて学習する人権問題等を設定したことで、それ相応の知識を身に付けることができ、アンケートの結果から数値の向上が各学年で見られた。全校児童を対象にしたアンケート項目「友だちにいやなことを言うてはいけない理由を知っている」「友だちが失敗したり間違えたりしたとき、どうしたらよいか知っている」は、教育活動全体を通しての学習で95%を達成することができた。

○ 価値・態度的側面（自他の人権を尊重することを肯定的に受け止め、発達段階に応じて、人権擁護の実現を目指して意欲を高めている）

| 質問項目                           | 5月実施 | 12月実施 |
|--------------------------------|------|-------|
| 友だちみんなが楽しいと思えるクラスにしたい（全校児童）    | 92%  | 95%   |
| 明るく大きな声で返事やあいさつができる（全校児童）      | 70%  | 85%   |
| 友だちと意見や考え方が違ってもよい（全校児童）        | 74%  | 91%   |
| 高齢者が困らないための方法を考えたいと思う（6年生）     | 75%  | 97%   |
| 差別解消のために自分のできることをしたい（6年生）      | 95%  | 100%  |
| 自分も友だちも将来の夢は、自由に考えてよい（5年生）     | 92%  | 100%  |
| もし、生き物を飼うときは、欠かさずお世話ができる（4年生）  | 88%  | 100%  |
| 外国のことや外国の人についてくわしく知りたいと思う（3年生） | 72%  | 81%   |
| 青は男の子、赤は女の子とは限らない（2年生）         | 81%  | 100%  |

※数値は肯定的な回答をした児童の割合

コロナ禍で声を出さない指導をしていた期間もあったが「明るく大きな声であいさつができる」の項目において大きく改善することができた。また、ALTや地域の方との関わりの中で、感謝の気持ちを持ち、相手の思いを理解する経験が、人権擁護の

意欲の向上につなげることができた。

○ 技能的側面（他者とのやり取りを通して課題解決のために思考したり、偏見や差別を見極めたりすることができる。また、他者との相違を認めて、協力して問題解決に取り組むことができる。）

| 質問項目                                   | 5月実施 | 12月実施 |
|--|------|-------|
| トイレのスリッパを並べたほうがよい理由を知っている（全校児童）        | 92%  | 95%   |
| 係の仕事がクラスにある理由を知っている（全校児童）              | 91%  | 95%   |
| 高齢者が困っていたら、進んで助けることができる（6年生）           | 82%  | 97%   |
| 障がいのある人が何を言おうとしているか、聞こうとすることができる。（5年生） | 92%  | 95%   |
| ごみが落ちていたら、進んで拾うことができる（4年生）             | 71%  | 100%  |
| 外国の人に自分のことを伝えることができる（3年生）              | 12%  | 38%   |
| 自分の好きな色を自分で決めることができる（2年生）              | 91%  | 100%  |

※数値は肯定的な回答をした児童の割合

アンケートの結果から数値の向上が各学年で見られた。各学級での指導や、全校集会での校長や生徒指導主事の話の中で、相手のことを考えた対話や行動のモデルや、他の場面での活用などを示すことで、他者や相手のことを考えた行動や対話、より良いコミュニケーションが見られるようになった。

イ スマイルアンケート（学校生活調査）によるいじめ等の認知件数の変容

| 年度    | いじめの認知件数 |
|-------|----------|
| 令和4年度 | 7        |
| 令和5年度 | 4        |

毎月行っているスマイルアンケート（2か年とも12月実施分までの数値）でのいじめ認知件数が、令和4年度と比較し減少した。

ウ 「スマイルアンケート」や「まなびたい度」等のアンケートによる児童の変容〔友達・教職員との関係、学習意欲、自己肯定感、心身の状態、学級集団における適応感、基本的自尊感情と社会的自尊感情の相関〕

| 質問項目                         | 全国学力調査 | 12月実施 |
|------------------------------|--------|-------|
| 学校に行くのは楽しいと思いますか             | 92%    | 95%   |
| 将来の夢や目標をもっていますか              | 88%    | 95%   |
| 地域や社会で起こっている問題や出来事に 関心がありますか | 81%    | 90%   |
| 人の役に立つ人間になりたいと思いますか          | 95%    | 100%  |

※ 数値は「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」を合算したもの

アンケートの結果から数値の向上が見られた。授業や学校行事等の様々な場面で人権

教育の視点を意識した取組を実施したことが、結果に現れてきたと考えることができる。

エ 全国学力・学習状況調査の質問紙による検証

[自己有用感、地域や社会に関わる活動の状況等]

| 質問項目                         | 全国学力調査 | 1月実施  |
|------------------------------|--------|-------|
| 人が困っているときは、進んで助けていますか        | 97.6%  | 97.6% |
| いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか | 95.8%  | 97.6% |
| 自分と違う意見について考えるのは楽しいと思いますか    | 81.0%  | 82.1% |
| 友達関係に満足していますか                | 90.5%  | 92.3% |
| 地域や社会をよくするために何かしてみたいと思いますか   | 76.2%  | 94.8% |

※ 数値は「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」を合算したもの

第6学年対象のアンケートの結果から4月の全国学力状況調査時と比較し数値の向上が見られた。朝のあいさつ運動や代表委員会での活動を通して、最高学年としての意識をもち、活動を行った結果であると考えられる。6年生の児童は、朝のボランティア活動を自分達で考えて主体的に活動することを目標に1年間取り組んできたことで、自分達の活動に自信をもち、教師や地域の方からの賞賛が人の役に立つ喜びにつながり、数値を大きく上昇させたと考えられる。

オ 研究の取組の普及・啓発

[ホームページ等を活用しての研究内容や成果及び課題の発表]

宮崎県教育委員会人権同和教育課と連携し、本研究のまとめを行い、実践事例集を作成し、関係機関等へ配付・啓発をするとともに、リーフレットを作成し、宮崎県教育研修センターホームページに掲載することで、人権教育の普及・啓発を行った。

5. 推進体制（都道府県・指定都市教育委員会を含む）

